四ツ小屋地域元気づくり協議会情報誌

元気づくり

第2号

発行　／　編集
四ツ小屋地域
元気づくり協議会
発行責任者　川村良喜
TEL 018-839-6444
http://yotugoya.net/

豪雨の猛威、家屋田畑のむ
防災の備えの必要性実感！

今年度の元気づくり活動は、「出張せせらぎ市」を含めて十一回開催する事ができた。正確にいうと七月十五日予定していた、市と防災訓練は豪雨により急遽中止となった。一方で五月二十日にはけやき会が主催する「ふらっとけやき」に四ツ小屋野菜の出店を要請され、同二回目の十月十四日にも参加し、元気づくりの知名度を感じさせる嬉しい催しとなった。

せせらぎ市は、「地元の農業の振興と交流機会の創出」、そこから地域の元気に繋げて行こうとする取組みだが、荒天に悩まされた日が多い年でもあった。また全国的猛暑で地球温暖化を実感させられた年にもなり、七月十四日から十九日に掛けて秋田県内全域に亘り豪雨災害に見舞われ、川の氾濫により田畑水没の他、秋田市中央部では最大規模の被害がでた。

床上、床下などの建物被害は秋田市で五七四三棟、五城目町で六三二棟にのぼり、秋田県全市町村では七八一七棟となった。（十一月十四日現在）。作業小屋や農作業小屋などを含めると更に被害が増える事が予想され、また農業機械など報道されない被害もある。

「せせらぎ市」に参加する個人農家も豪雨や猛暑で、作物の被害が続出、例年の時期だと旬を迎え出荷できる野菜が発育不良をおこしたり、「あきたこまち」にも影響が拡がった。

秋田は、全国的には比較的災害が少ない地域と捉えられ、水没危険地域を示す防災マップを見ても楽観視していた感があり、各地で災害がある中で秋田だけが無いとは言えない。その為防災講習を計画していたが、災害に対する備えも、準備も心得ていないのが実情で、考えるきっかけになれば良い程度の催しであった。だが予想を遙かに超える皆様が来場し、防災に関心がある方が多いんだなあと思った。

講習には秋田市南消防署や四ツ小屋分団、日赤秋田社会事業部のご協力をいただいた。消防署からは簡易担架の作り方や火災時の消火器や避難方法など、日赤秋田からは、いざ大きな災害が発生した場合、飲料水や電気も使用できない事を想定し、川の水でも米が炊ける方法（ポリ袋の中に米と飲料水）や怪我をした場合の救急措置などの講習していただいた。

催しの一環としての企画だったが私達の役割の重要性を痛感した貴重な一日となった。皆様のご協力有り難うございました。（英）

◁日赤社会事業部主催の災害時救急措置講習

▷秋田市南消防署の消火訓練に参加の子供たち

カントリー稼働二年目、受入米減少
厳しい農業環境に挑戦あるのみ

稲と大豆の受入れが一段落した十一月の晴れの日、秋田市南カントリーエレベーターを訪ねた。一連の終盤作業の「もみすり」などの作業に忙しい最中に施設長加藤貞吉さんから話しを聴いた。

今年度二年目の受入稼働した同施設での米の場合、当初受入予定の約一割程少ない※二八〇町歩に留まった。その主な要因は猛暑の影響で収穫量が激減したためだ。過去にも冷害の被害はあったが、今回のような猛暑は経験がないという。当施設の最新機械による品質測定で厳しい数値になるが、と前置きしての話しだが、例年だと各品種米の一等比率は八〇％以上あり、「ぎんさん」に至っては一〇〇％であった。しかし今年度は「あきたこまち」をはじめ、各品種がダメージを受け、農家も大幅な減収と予想される。だが今回が特別とは限らないので、圃場整備事業における借入や補助金などの活用できる期間に、多角的な取組みでのり切って欲しいと思う。また営農に一手間を惜しまず努力してもらいたいと話された。

当地区内では農業法人など多数誕生、だが経営母体のその大半は高齢化している。若い人材確保や会社組織としての体制作りを急ぐ必要があるだろう。（英）

※一町歩は一万平米

加藤施設長

▲上空からの南カントリーエレベーター
撮影：インベーダードローン

こころ耕す大地の恵み
YOTSUBA　FARM
株式会社　四ツ葉ファーム
〒010－1418
秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下60－2
☎(018)839－1703　📱090－5593－4198